

21世紀経営クラブ

No.710 魅力的な沖縄市場 -2012.4.18

沖縄に上陸して通算 24 年目になります。当時はバブル崩壊直前でしたが、崩壊寸前の異様な活気がありました。当時の人口は 116 万人。GDP は 2.1 兆円。一人当たり県民所得は 160 万円で東京の 1/2、全国の 70% でした。今は人口 140 万人と増え、GDP は 4 兆円と倍増しました。2008 年の総務省統計局の「社会・人口統計体系」と内閣府の国民経済計算の「県経済統計」を分析すると、さらに、面白いことが分かります。

「社会・人口統計体系」は 15 歳未満の年少者人口と 15 歳～64 歳の生産年齢人口と 65 歳以上の高齢者人口のそれぞれの構成比が分かり、「県経済統計」は都道府県の GDP や県民所得の推移を調査した統計です。

内閣府が公表している 2009 年の「県経済統計」によれば、GDP のベスト 5 は東京 85 兆円、大阪 36 兆円、愛知 32 兆円、神奈川 30 兆円、埼玉 20 兆円です。ワーストは鳥取の 1.8 兆円です。京都は 10 兆円で 13 位、沖縄は 4 兆円で 34 位です。前年対比でみると全国平均で 3.9% 減ですが、唯一沖縄県だけが 0.9% の増加となっています。

一人当たり県民所得でみると、ベスト 5 は東京 390 万円、神奈川 309 万円、愛知 297 万円、滋賀 296 万円、静岡 292 万円。ワーストは高知の 202 万円。京都は 281 万円で 11 位、沖縄は 205 万円で 46 位でした。前年に比べると全国平均は 4.3% 減となります。ここでも沖縄県、島根県、秋田県のみが横ばいか微増となっています。

現在の経済力からすれば、東京をはじめとした首都圏がダントツの勢いを見せていますが、全体的には縮小傾向にある日本経済の姿が明確です。しかし、個別にみると規模の経済だけでは見えないさまざまな風景が広がっています。

数字ばかりで面白くないかもしれませんが、もう少しお付き合いください。

今度は、経済ボリュームを生みだしている人口の年齢別構成比を見てみましょう。人口構成比からみると、全く違う景色が見えてくるのです。

生産年齢構成比でみると東京 69.3% とトップ。2 位が 68.8% で埼玉と神奈川が続きます。大阪は 66.6%、沖縄は 65.1%。

高齢者人口構成比でみると、東京は 19.1%、埼玉は 17.3%、神奈川は 17.7%、大阪 19.6% と 15% を越えて 20% に近付いていますが、沖縄は 16.5% で最も少ないのです。

未来の勢いを決定づける年少者人口の構成比を見てみると、東京 11.6%、埼玉 13.9%、神奈川 13.5%、大阪 13.8% と 15% を切っていますが、沖縄は 18.4% と全国一の多さを誇っています。年少者は今後生産年齢になり、所得を増やす原動力となってゆきます。

このようにみると、現在指標だけで判断するのではなく、未来指標も参考に経営を考える必要があります。長期のトレンドで見ると沖縄はなかなか面白い市場になることが統計上からも示していると言えます。

目加田博史